

市長が行く

プラチナタウン構想



茂原市長 田中豊彦



皆さんの中には『プラチナタウン』という小説をお読みになった方もいらっしゃると思います。楡周平さんという作家の作品で、テレビでもドラマ化されました。これは、公共事業で、箱モノを作り過ぎた結果、周囲から合併を断られるほどの負債を抱え、財政再建団体に転落寸前となった故郷の町（どこかで聞いたような？）を、何とか立て直すようと、大手総合商社に勤めていた主人公が町長に就任する物語です。その中で、起死回生の策として掲げたのが、「巨大永住型高齢者向け施設」の建設でした。

生活できるというもので、以前この欄で書いたコンパクトシティや、スマートシティにも通じるものがありますが、少し違うのは「ハッピーリタ イアメント」という考え方でしようか。住居棟、要介護棟、ショッピングモール、歩いて5分で行ける総合病院棟が併設され、健康に過ごせる中高年世代が移り住み、新しいコミュニティをつくります。ここでは、文化芸術を楽しんだり、体育館やプールで体を動かしたり、高齢者が余生を楽しむ一方、医療と介護施設を併設することで、安心した老後を保証されるとしています。

今、地方創生のカギとして、話題に上ってきているのが、このCCRC構想です。Continuing Care Retirement Communityとは、「継続的なケア付引退後コミュニティ」のこと。高齢者が自立して生活できるうちに特定の施設に入居し、介護が必要になったら、適切な医療を受けながら

先日、長柄町とリゾートソリューション、千葉大学が連携し、「リソル生命の森」において、CCRC構想を立ち上げました。今、日本のあちこちにこのような施設は作られ始めています。もちろん、入居するには高額の費用が掛かります。この構想は、幸せな生活のためなら、お金を出す

うするの？小説の中の町長は、「町の財政がよくなれば、低所得者も入れる特養や老健も充実できる」と答えました。人それぞれ幸せのとらえ方は違うので、果たしてそういう施設に入ることが幸せな老後なのかと聞かれたら、なんとも答えようがないのですが、少なくとも医療や介護の面で安心できるということは、良いことのように思います。

高齢化の進む中で、私も常にこの茂原市を高齢者にとっても住みやすい町にするにはどうしたらよいかを考えてきました。より良い医療や介護の提供、また充実した文化やスポーツ施設の建設には、やはり財政再建が不可欠ですが、それと同時進行で、良いプロジェクトを進めていけるよう検討していきたいとあらためて考えています。